# 再評価結果（平成１９年事業継続箇所）

担　当　課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村　昌司

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業名 | 一般国道４５号　坂下拡幅 | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省<br>東北地方整備局 |
| 起終点 | 自：宮城県仙台市宮城野区原町苦竹<br>至：宮城県仙台市宮城野区原町苦竹 | | | 延長 | １．２km |

**事業概要**

一般国道４５号は、宮城県仙台市と青森県青森市を結び、広域交流の支援並びに沿道市町村の連携強化を図る幹線道路である。
坂下拡幅は、仙台市宮城野区原町苦竹地区における国道４５号の交通混雑の解消、歩行者・自転車の安全性・快適性の向上を目的としている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ｓ４７年度事業化 | Ｓ４０年度都市計画決定 | Ｓ４７年度用地着手 | Ｈ５年度工事着手 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 全体事業費 | 約７０億円 | 事業進捗率 | ８６％ | 供用済延長 | ０．４６km |
| 計画交通量 | ３９，６００台／日 | | | | |

| 費用対効果分析結果 | B／C | 総費用 (残事業)/(事業全体) | 総便益 (残事業)/(事業全体) | 基準年 |
|---|---|---|---|---|
| | (事業全体)<br>１．７<br>(残事業)<br>４．５ | 13/85億円<br>事　業　費：　10/80億円<br>維持管理費：　3/ 5億円 | 60/143 億円<br>走行時間短縮便益：55/121億円<br>走行費用減少便益：3/ 19億円<br>交通事故減少便益：2/ 3億円 | 平成１８年 |

**感度分析の結果**　残事業・事業全体について感度分析を実施

【事業全体】交通量変動　:B/C=1.9(交通量+10%)　B/C=1.5(交通量-10%)【残事業】交通量変動　:B/C=5.0(交通量+10%)　B/C=4.1　(交通量-10%)
事業費変動　:B/C=1.6(事業費+10%)　B/C=1.8(事業費-10%)　事業費変動　:B/C=4.4(事業費+10%)　B/C=5.1　(事業費-10%)
事業期間変動:B/C=1.2(事業期間+20%)B/C=2.0(事業期間-20%)　事業期間変動:B/C=4.5(事業期間+20%)B/C=4.8 (事業期間-20%)

**事業の効果等**

・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度が20km /h未満である区間の旅行速度の改善）
・歩行者、自転車の為の生活空間形成（歩道設置による利用者の安全性、快適性向上）他８項目に該当

**関係する地方公共団体等の意見**

坂下拡幅区間は、交通混雑の解消、歩行者、自転車の安全性や快適性の確保が期待されており、仙台市をはじめとする関係３市１町他１０団体で構成される仙台都市広域行政推進協議会より整備促進の要望（平成１７年７月）を受けている。

**事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等**

この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

**事業の進捗状況、残事業の内容等**

【執行済み額】事業費：６０億円（進捗率 86%）　うち用地費：４２億円（78%）

**事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等**

Ｈ１９年度の供用予定であるが、用地補償協議で時間を要しているため、土地収用法に基づく事業認定申請の準備を行うとともに、任意での用地買収の推進を図り、平成１９年度のＬ＝０．５ｋｍの完成を目標に事業推進を図る。

**施設の構造や工法の変更等**

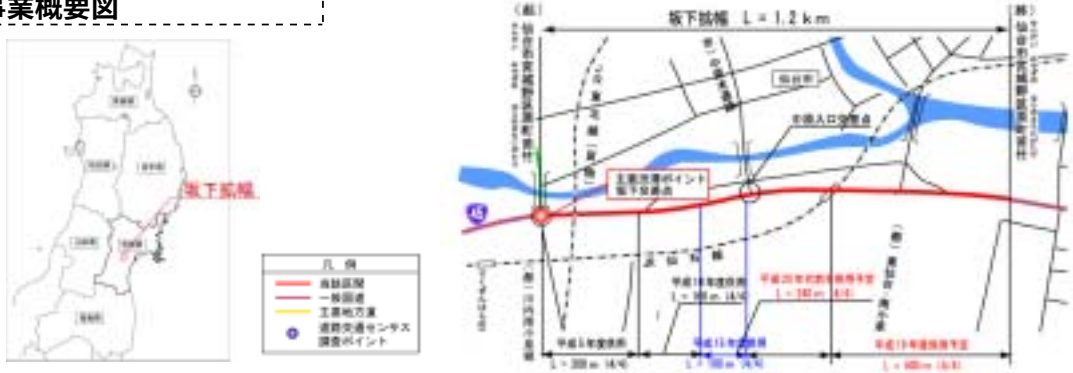
舗装材料の再生資材の活用並びに、歩車道境界ブロックに工期短縮に効果的で経済的なプレキャスト長尺製品を活用し、コスト縮減を図っている。

**対応方針**

**対応方針決定の理由**

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

**事業概要図**




※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。